

「よこげい実行委員会」の活動を見学しました

広島市西区横川を拠点に活動されている、よこげい実行委員会の活動を、2025 年 6 月 29 日（日）に見学しました。



よこげい実行委員会は、地域の関係者を巻き込んだアートプロジェクトを実施し、次世代の担い手がやりたいことを実現できる場や、やりがい、達成感を創出することを目的に活動しておられます。具体的には、横川の「まち」を題材に、まちの人々から話を聞き、探索するフィールドワーク、アーティストとの協働による作品制作、対話を重ねながら作品を読み解く鑑賞など、アートを媒介に地域を活性化させるアートプロジェクトを通じて、青少年を中心にアーティストとの協働プロセスに参加・体験する機会を提供しています。

今回は、「かこう会-まちの記憶をスケッチする-」のフェーズ1「リサーチ&スケッチ編」を実施、まちの人から話を聞き、デジタルスケッチで“感じたものを”を描くワークショップが開催されました。フェーズ1はお話のテーマが3つ設定され、好きなテーマに参加できるようになっていました。見学に伺った日は、「商店街」のお話をお聴きするというもの。参加者は20歳前後の若者4名と大人4名の皆さん。中にはリピーターの学生さんもおられました。

指導してくださる講師の方は、広島風景を主な題材として描いておられる画家の手嶋勇気さん。横川のお話を聞かせてくださったのは、横川商店街振興組合の理事長さんと横川商店街連合会の会長さんでした。

まず初めに、約400年前に広島城が築城された頃から現在に至るまでの「横川」のまちの成り立ちから現在の様子に至るまで、横川の名前の由来や、チャレンジ精神旺盛且つ寛容な人々の大変興味深い話を伺いました。



まちの記憶（歴史）を知ったところで、早くまちに繰り出したい気持ちを抑えつつ、デジタルスケッチの描き方を講師から教わりました。スケッチは、携帯やタブレットにアプリケーションをダウンロードして指や専用のペンを使って線の種類ごとにレイヤーを分けて重ねて描きます。コツをつかんだところで、いよいよ自分なりに、心に残ったエピソードが感じられる場所を探索、各人スケッチのモチーフとなる風景や場所を見つけ、早速スケッチに取り掛かっていました。



制作開始1時間、描き終えた参加者は屋内に戻り、皆さんに作品を共有。先生から、初めて取り組んだデジタルスケッチ制作の感想や、何を描いたかなどを聞かれ、それぞれ感じたことや苦労した点などを発表し合いました。初めて取り組んだデジタルスケッチは、難しいながらも、楽しめたようです。

今後、これらの作品は、講師の手嶋先生がレイヤーをまとめる形で、1枚の作品として制作され、横川駅周辺に展示する計画だそうです。みんなが描いた線が最終的に作品に取り込まれ、それが、まちの記憶として残されていく、それぞれの思いが詰まった作品の完成がとても楽しみです。

古くから交通の要所として栄えてきたまち。今では、年間を通じて数々のイベントを開催

し、若者が多く集まる街へと変貌してきました。今回参加した若者たちは、スケッチを描くことで、記憶として「横川」が刻みこまれたことと思います。今後、まちづくりの担い手として、また、まちの応援者として関心を寄せてくれたら嬉しいなと思いました。（本郷）



参加された皆さまの感想 等

- ・デジタルスケッチを描くのは難しかったが、参加してとても楽しかった！
- ・紙とは違う良さを感じた。書いた線をすぐに削除できるので、書き直しが容易。
- ・何を描くかモチーフ選びに悩んだ。
- ・聴いたお話の特徴の捉え方やそれを表せる場所を探すのに苦労した。
- ・駅前の風景を描こうとしたが、建物を描くのが難しかった。
- ・「元気あふれるまち」を表そうと、空の色を水色だけでなく、いろいろな色を組み合わせしてみた。エネルギー感を出すために、縦線を用いて空を描いた。
- ・横川、興味深い！他のイベントにも参加したい。これからも関わっていきたい。

